



- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

2025年（令和7年）、新年を迎え、学校生活も順調にスタートしました。日本では、1月1日は「元日」で、3日までを「三が日」といってお正月としています。そして、「七草」の7日までを「松の内」と呼び、門松などはこの日まで飾っておきます。また、11日は「鏡開き」で、この日までは、おそなえ餅や鏡餅を供えておきます。

さらに、15日を「小正月」と呼び、20日を「二十日正月」とも言います。このように、日本人は、一年の始めであるお正月をととても大切にしてきました。新しい年を迎え、新たな思いで一年をスタートしようという人々の思いがあったのではないのでしょうか。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



全校集会（表彰・冬休み前・冬休み明け）

12月25日（水）、冬休み前の全校集会と表彰式を業間に実施しました。今年一年の振り返りと新年を迎えるにあたっての心構え等について話をしました。表彰式で受賞した児童は右のとおりです。

1月8日（水）の朝、冬休み明けの全校集会を行いました。全校児童に、心構えとして「新年の抱負」「一年の計は元旦にあり」等の話をしました。

名 称	クラス	氏 名
ブルグミューラーコンクール 2024栃木ファイナル	小学1・2年B部門 奨励賞	2-2 倉山 えみり
第16回かわち地区 学童新人野球大会	Aブロック3位	錦野球スポーツ
第18回宇都宮福祉の祭典 福祉書道展	銅賞	5-1 佐藤 美日菜
第26回うつのみやジュニア 芸術祭学校美術展	立体の部 銀賞	5-2 菊池 琴菜
	平面の部 銀賞	3-1 上野 未桜
	平面の部 銅賞	1-1 角山 紗彩
		2-2 岩崎 結愛
		4-2 向井 寛人
		6-2 川島 優希
ふれあいのある家庭づくり 作品コンクール	絵画部門 佳作	4-2 向井 寛人

中学校訪問（6年）

1月17日（金）、6年生は陽北中学校を訪問しました。体育館での全体説明会では、中学生による学校紹介があり、その後、班ごとに授業を参観しました。授業中の雰囲気や先生方の指導の様子を目にし、児童は緊張している様子でした。最後に各自で部活動を参観し終了しました。陽北中学校の先生方、大変お世話になりました。



亀和田様による珠算の授業

3学年を対象に、1月21日～22日にそろばん教室を行いました。講師は、本校同窓会長の 亀和田 公一 様です。そろばんの歴史や世界のそろばんについての話、実際に訪問された世界各国での体験談の後、実際にそろばんを使いご指導いただきました。亀和田様、大変お世話になりました。



民生委員・児童委員連絡協議会



12月23日（月）、錦地区民生委員児童委員協議会長の山谷様を始め、主任児童委員の方が来校され、協議会から本校に、軟式用グローブやボールなどを寄付していただきました。大切にそして有効に活用していきたいと思ひます。民児協の皆様、本当にありがとうございました。

全校ドッジボール大会

1月20日(月)、みんなの時間に、スポーツ委員会主催で実施しました。児童の主体性を高める活動の一環としての行事です。



教職員の体罰等に係る相談

宇都宮市では、教職員の体罰・不適切指導の根絶や指導力向上を図り、信頼される学校づくりに向け様々な取組を行っております。その一環として、保護者からの体罰等に係る相談の機会を設けております。そこで、相談事案等がございましたら、事前に、校長・副校長までお申し出ください。(☎621-0444)

◇相談日：令和7年1月29日(水)・30日(木)

◇時間：13時00分から16時00分

◇場所：錦小学校 校長室



祝！奨励賞

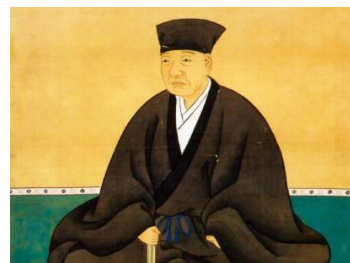
本校PTAの広報紙が、全国小・中学校PTA広報紙コンクールで、奨励賞を受賞しました。

大変おめでとうございます！



守・破・離【現代版：習得・活用・探究】

私たちが勉強やスポーツをする時、または、習い事をする時に大切にすることは何かと聞かれたら、ほとんどの人が、基礎・基本と答えるのではないのでしょうか。基礎・基本を身に付けることを昔の人は、「守」と言いました。基礎・基本を守るという意味です。基礎とは、建物で言えば一番下で家を支える土台のことです。基本とは柱のことで、家が傾いたり潰れたりしないようにする中心のことです。どんな勉強やスポーツにも基礎・基本があり、そこがしっかり身に付いていないと進歩や上達は望めません。そして、基礎・基本を身に付ける上で大切なことは、先生や専門の指導者にしっかり教えてもらうことです。自分で勝手にやっても、ずれやぬけなどが出てしまい上達はしません。もう一つ大切なことは、繰り返すことです。基礎・基本の形をしっかり身に付くまで頑張って繰り返し練習することです。基礎・基本が身に付いたら、次はそれを使ってもっとよくなるように工夫することです。昔の人はこれを「破」と言いました。基礎・基本の練習は決して面白いとは言えませんが、それらを打ち破り自分なりに工夫することは楽しいことです。さらに、工夫や努力を続けていくと、自分なりのやり方や取り組み方、考え方が出来てきます。昔の人はこれを「離」と言いました。先生や自分自身の型を取り込み、最終的に基礎・基本から離れ、独自のやり方で一流を目指してきました。



学校で学んでいる勉強も、この流れをたどっています。基礎・基本を学ぶこと、つまり「守」のことを「習得」と言い、それを使って課題に対し自分なりに取り組み問題を解決します。つまり「破」のことを「活用」と言います。さらに、習得したことや活用した経験を生かして、次は自分で学習課題をつくり解決の仕方を考えて解決するという取組をしています。つまり、総合的な学習の時間で行う「探究」は、「離」に当てはまります。学校



で学んでいる「習得・探究・活用」は、昔の人の「守・破・離」と同じことと捉えることができます。戦国時代から安土桃山時代にかけて活躍した茶人 千利休は、『わび茶』という茶の湯の様式を追求、完成させた茶聖としても有名です。千利休も、「守・破・離」という考え方を提唱し、先人が突き詰めていった美意識の型を学ぶことで、自らの美意識を拡張することができることを説いています。



本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえが
しっかりまなぶ
きたえるからだ